

〈事業報告〉

I 事業状況

1. 日独学術文化に関する研究並びにその助成（定款第4条第1項第1号）

〈第25回公開シンポジウムの開催〉

（1）開催日と場所：

平成27年12月19日（土）ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川大ホール

（2）参加者： 約30名

（3）テーマ： 連続テーマ「ことば」の3回目として「翻訳」

（4）基調講演：

- ・ 初宿正典氏（京都産業大学大学院教授・本法人評議員）：
「《翻訳文化としての法律学》閑話」
- ・ 貫成人氏（専修大学教授）：「踊りを翻訳する：バレエと暗黒舞踏の例から」

（5）パネル討論：

パネラー： 講演者 初宿氏、貫氏

司会： 大橋良介所長、秋富克哉理事、高田篤理事、

コメンテーター： 小川暁夫理事、谷徹理事

参加者からの質疑等もあり、活発な討論が展開された。

2. 日独学術文化に関する図書雑誌の編集及び出版刊行（定款第4条第1項第2号）

〈年報の刊行 平成27年度年報『文明と哲学』第8号〉

（1）刊行月・出版社： 平成28年3月、こぶし書房

（2）編集代表： 谷徹理事

（3）内容：

【論考I】

- ・ 大橋良介「『悲』（コンパシオン）の現象論（三）——ある『他者』論の試み（続）——」
- ・ 谷徹「文明・文化と（四）」
- ・ 秋富克哉「哲学の家郷——西田とハイデッガーの哲学的対話に向けて（二）——」
- ・ 水野友晴「東洋的思考と創造——鈴木大拙の提言（二）——」

【対談】

- ・ 岩崎英二郎＋小川暁夫「日本人がドイツ語を話す時」

【論考Ⅱ】

- ・小川暁夫「言語のタイプを決めるもの——普遍原則から個別類型へ——」
- ・関口浩「ハイデガーと現代絵画」
- ・吉田馨「『浪華悲歌』のリアリズム」
- ・藤田俊輔「ヤスパースにおける『自己化』の問題を巡って」
- ・高田篤「憲法の論じ方——カール・シュミットの緊急事態の論じ方を例に——」
- ・三宅雄彦「スメントの後任問題——一九五一年の国法講座と統合理論の継承——」

【エッセイ】

- ・木村敏「人生の転機にあたって」

【公開シンポジウム「ことば」】

- ・大峯顕「仏についての言葉と仏である言葉」
- ・芦名定道「キリスト教思想と宗教言語——象徴・隠喩・テキスト——」

【学術交流講演】

- ・ロルフ・エルバーフェルト（井西弘樹＋谷山弘太・訳）「多声的主観とニーチェの文化（Kulturen）概念」
- ・アナ・ホナッカー（有村直輝＋柳川耕平・訳）「不確かな可能性にもとづいた生——懐疑と確実性との中間の道としてのウィリアム・ジェームズのプラグマティズム的ヒューマニズム——」

【賛助会員年次総会講演】

- ・森哲郎「禅の十牛図の世界」

【文献紹介】

- ・小田切建太郎「ヘルムート・フェッター『ハイデガーの見取り図 その生涯と作品のためのハンドブック』」

3. 日独学術文化に関する講習会・講演会等の開催（定款第4条第1項第3号）

〈哲学講座「初夏講座」〉

（1）開催日と場所：

第1回・第2回： 平成27年5月31日（日）

第3回・第4回： 同6月28日（日）

第5回・第6回： 同7月12日（日）

会場はいずれも京都教育文化センター102号室

- (2) 受講者： 受講者は 26 名（学生 13 名、一般 13 名）
- (3) 講師： 井上克人氏（関西大学教授）
- (4) テーマ： 「西田哲学を読み解く 6 つのキーワード」

〈哲学講座「中秋講座」〉

- (1) 開催日と場所：
 - 第 1 回・第 2 回： 平成 27 年 10 月 10 日（土）
 - 第 3 回・第 4 回： 同 10 月 24 日（土）
 - 第 5 回・第 6 回： 同 11 月 7 日（土）会場はいずれも公益財団法人日独文化研究所セミナー室
- (2) 受講者： 19 名（学生 7 名、一般 12 名）
- (3) 講師： 嶺秀樹氏（関西学院大学教授）
- (4) テーマ： 「ハイデッガーと日本の哲学」

〈哲学講座「初春講座」〉

- (1) 開催日と場所：
 - 第 1 回・第 2 回： 平成 28 年 1 月 16 日（土）
 - 第 3 回・第 4 回： 同 2 月 20 日（土）
 - 第 5 回・第 6 回： 同 3 月 19 日（土）第 1～4 回の会場はゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川小ホール
第 5・6 回の会場は公益財団法人日独文化研究所セミナー室
- (2) 受講者： 32 名（学生 9 名、一般 23 名）
- (3) 講師： 芦名定道氏（京都大学教授）
- (4) テーマ： 「キリスト教思想と哲学との間」

4. 日独学術文化に関する図書及び資料の収集、公開及び配布（定款第 4 条第 1 項第 4 号）

〈所内報の発行〉

- (1) 刊行年月： 平成 27 年 11 月（第 4 号）
- (2) 内容： 本法人の活動内容や事業報告を、一般の人々にもわかりやすいようにとりまとめ、賛助会員をはじめ、事業参加者などに配布。
研究所の活動を広く知らせるために、今後も年 1 回刊行予定。

5. 日独学術文化に関する研究者の招待、派遣及び交換（定款第4条第1項第5号）

国内の学会、大学、ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川と連携して、ドイツ、台湾から学者を招へいし、講演会等を開催した。

〈クリスチャン・ブムケ氏講演会〉

- (1) 開催日と場所： 平成27年9月17日（木） 大阪大学豊中キャンパス待兼山会館2階会議室
- (2) 講師： クリスチャン・ブムケ氏（ドイツ・ブツェリウス・ロースクール教授）
- (3) テーマ： 「法における自律」
- (4) 参加者： 25名
- (5) 共催： 大阪大学大学院法学研究科、高等司法研究科

〈アナ・ホナッカー氏講演会（2回）〉

（第1回）

- (1) 開催日と場所： 平成27年10月9日（金） 立命館大学末川記念会館第3会議室
- (2) 講師： アナ・ホナッカー氏（ハノーヴァー哲学研究所研究員、博士）
- (3) テーマ： 「不確実な可能性にもとづいた生——懷疑と確実性との中間の道としてのウィリアム・ジェームズのプラグマティズム的ヒューマニズム——」
- (4) 参加者： 19名
- (5) 共催： 立命館大学・間文化現象学研究センター

（第2回）

- (1) 開催日と場所： 平成27年10月11日（日） 公益財団法人日独文化研究所セミナー室
- (2) 講師： アナ・ホナッカー氏
- (3) テーマ： 「W・ジェームズにおける純粹経験と宗教的信念批判」
- (4) 参加者： 25名
- (5) 共催： 西田哲学研究会

〈黄舒芃氏講演会〉

- (1) 開催日と場所：平成 28 年 3 月 4 日（金）大阪大学豊中キャンパス待兼山会館 2F 会議室
- (2) 講師： 黄舒芃氏（台湾アカデミー教授）
- (3) テーマ： 「台湾におけるケルゼン研究とそこから見たドイツにおけるケルゼン『再発見』」
- (4) 参加者： 28 名
- (5) 共催： 大阪大学法学会

〈クリスチャン・レール氏講演会〉

- (1) 開催日と場所： 平成 28 年 3 月 30 日（水）同志社大学室町キャンパス寒梅館 6 階大会議室
- (2) 講師： クリスチャン・レール氏（ドイツ・コンスタンツ大学教授）
- (3) テーマ「公法にとっての国際化の挑戦」
- (4) 参加者： 22 名

● 事業別の事業実績のまとめ（単位：円）

定款第4条	事業内容	給与・その他	謝礼金	会議費	旅費交通費	通信費	消耗品	印刷製本	賃借料	修繕費	計
研究並びにその助成	公開シンポジウム	0	222,740	29,220	29,530	60,639	0	145,137	648	0	487,914
	年報	0	0	53,491	30,310	22,393	1,920	1,893,581	2,160	0	2,003,855
編集及び出版刊行	シンポジウム成果	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	哲学講座	0	613,401	22,350	8,180	168,539	1,402,074	321,840	2,268	430,416	2,969,068
	科学技術講演会	0	0	1,944	0	0	0	0	0	0	1,944
資料の収集公開配布	所報	0	0	0	4,160	0	0	59,400	0	0	63,560
研究者の招待・派遣等	学術交流	0	525,659	0	0	1,404	0	0	0	0	527,063
職員人件費他		3,094,376	0	0	85,974	191,369	76,670	0	0	0	3,448,389
合計		3,094,376	1,361,800	107,005	158,154	444,344	1,480,664	2,419,958	5,076	430,416	9,501,793

II 登記、届出、報告事項等

1. 平成 27 年 6 月 18 日 内閣府に変更届出書を提出（定款の変更。理事、監事及び評議員に対する報酬等の支給の基準の変更）。
2. 平成 27 年 6 月 24 日 内閣府に事業報告等に係る提出書を提出。
3. 平成 27 年 10 月 23 日 役員の変動について登記を行う（山岡健人氏の理事及び代表理事辞任、山口裕史氏の理事及び代表理事就任、大橋良介氏の代表理事就任）。
4. 平成 27 年 10 月 28 日 内閣府に変更届出書を提出（定款の変更。名称又は代表者の変更。理事（代表者を除く）の氏名若しくは名称の変更）。
5. 平成 28 年 3 月 31 日 内閣府に事業計画等に係る提出書を提出。